

ポスター | 医療アセスメント

## ポスター5

### 医療経営・マネジメント

2021年11月19日(金) 16:30 ～ 17:30 P会場 (イベントホール)

#### [2-P-5-06] 北海道における高度医療人材育成プログラムの必要性について ～北海道大学病院経営アドミニストレーター育成拠点における 取り組み～

\*青木 智大<sup>1</sup>、森井 康博<sup>2</sup>、椎名 希美<sup>3</sup>、石川 智基<sup>1,4</sup>、鈴木 哲平<sup>1,5</sup>、藤原 健祐<sup>1,6</sup>、谷 祐児<sup>7</sup>、小笠原 克彦<sup>1</sup>（1. 北海道大学大学院保健科学研究院, 2. 国立保健医療科学院, 3. 北海道大学産学地域協働推進機構, 4. 医療経済研究機構, 5. 北海道教育大学岩見沢校, 6. 小樽商科大学大学院商学研究科, 7. 旭川医科大学）

\*Tomohiro Aoki<sup>1</sup>, Yasuhiro Morii<sup>2</sup>, Nozomi Shiina<sup>3</sup>, Tomoki Ishikawa<sup>1,4</sup>, Teppei Suzuki<sup>1,5</sup>, Kensuke Fujiwara<sup>1,6</sup>, Yuji Tani<sup>7</sup>, Katsuhiko Ogasawara<sup>1</sup>（1. 北海道大学大学院保健科学研究院, 2. 国立保健医療科学院, 3. 北海道大学産学地域協働推進機構, 4. 医療経済研究機構, 5. 北海道教育大学岩見沢校, 6. 小樽商科大学大学院商学研究科, 7. 旭川医科大学）

キーワード：Recurrent Education, Certificate Program, Hospital Management

【背景】北海道大学病院経営アドミニストレーター育成拠点（HUHMA：Hokkaido university hospital management administration）は、平成29年度文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム（病院経営支援に関する領域）」に採択された事業であり、病院経営における分析から戦略立案、およびその実行まで全てのプロセスにおいてリーダーシップを発揮できる人材を育成するプログラムの開発を目指している。教育プログラムは全12科目144時間から構成され、144時間のうち120時間以上を受講し、全12単位を取得した受講生には履修証明書を交付している。これまで平成31年度に第1期生25名を輩出し、令和3年4月時点で計57名を輩出している。本報告では修了生へのアンケート結果から北海道内における高度医療人材育成プログラムの必要性について述べる。【方法】履修証明書を交付した57名を対象に Google Formsを用いた無記名アンケートを実施した。（回答率85.9%）。アンケート項目では年齢と業種の基本属性に加え、受講理由（複数回答）、プログラムの満足度（5点満点）、プログラムによる自身へのプラスの効果の有無（5点満点）について5つの質問を行った。【結果】回答者の属性は30歳代、40歳代が75.5%を占めた。プログラムの満足度は全体の平均が4.3、回答者の87.8%が4点および5点と高い点数をつけており、満足度は高かった。受講理由(複数回答可)は「病院経営に係る知識を習得したかったから」（89.8%）が最も高く、「講義内容を学習する機会が他に無かったから」（55.1%）、「履修証明・ディプロマ取得に興味があったから」（38.8%）が続き、北海道内での高度医療人材養成プログラムの必要性が明らかとなった。

# 北海道における病院経営人材育成プログラムの必要性について

## -北海道大学病院経営アドミニストレーター育成拠点における取り組み-

青木 智大<sup>\*1</sup>、森井 康博<sup>\*2</sup>、椎名 希美<sup>\*3</sup>、石川 智基<sup>\*1,4</sup>、鈴木 哲平<sup>\*1,5</sup>、藤原 健祐<sup>\*1,6</sup>、谷 祐児<sup>\*7</sup>、小笠原 克彦<sup>\*1</sup>

\*1 北海道大学大学院保健科学研究所、\*2 国立保健医療科学院、\*3 北海道大学産学地域協働推進機構、  
\*4 医療経済研究機構、\*5 北海道教育大学岩見沢校、\*6 小樽商科大学大学院商学研究科、\*7 旭川医科大学

## The need for a program to develop hospital management personnel in Hokkaido -Initiatives at Hokkaido University Hospital Management Administrator program -

\*Tomohiro Aoki<sup>\*1</sup>, Yasuhiro Morii<sup>\*1</sup>, Nozomi Shiina<sup>\*2</sup>, Tomoki Ishikawa<sup>\*3</sup>, Teppei Suzuki<sup>\*4</sup>, Kensuke Fujiwara<sup>\*5</sup>,  
Yuji Tani<sup>\*6</sup>, Katsuhiko Ogasawara<sup>\*1</sup>

The Hokkaido University Hospital Management Administrator program provides 144-hour educational programs in 12 subjects to develop human resources who can exercise leadership in hospital management and has produced a total of 57 graduates as of April 2021. This study examines the need for an advanced medical human resource development program in Hokkaido based on the results of a questionnaire survey of graduates. In this study, we conducted a questionnaire survey of 57 graduates of this program using a Google form. In addition to basic attributes such as age and type of business, the questionnaire consisted of five questions: "Reasons for taking the course (multiple answers)," "Level of satisfaction with the program (5-point scale)," and "Whether the program had a positive impact on you (5-point scale)," as well as free statements. There were 49 respondents (response rate: 85.9%), and 75.5% of the total respondents were in their 30s and 40s. The overall average satisfaction level was 4.3, with 87.8% of the respondents giving a high score of "4" or "5" for satisfaction. The most common reason for attending the course was "I wanted to acquire knowledge related to hospital management" (89.8%), followed by "I had no other opportunity to learn the lecture content" (55.1%) and "I was interested in obtaining a qualification/diploma" (38.8%). This indicated the need for a program to develop advanced medical personnel in Hokkaido.

**Keywords:** Recurrent Education, Certificate Program, Hospital Management

### 1. 緒言

診療報酬のマイナス改定や疾病構造の変化による医療機関間の競争激化など現在医療機関を取り巻く環境は厳しさを増している<sup>1)</sup>。医療機関では効率的な病院経営の実践が求められており、医療機関は所在する課題を分析し、限られた医療資源の中で課題を解決する必要がある。効率的な病院経営の実践には分析力・戦略代替案の立案力・意思決定力が必要となるがそうした能力を有する人材が充足しているとはいえない。さらにこうした人材を育成する機関も少なく、病院経営において課題の一つとなっている。

こうした背景から文部科学省では高度医療人材養成プログラムに病院経営支援に関する領域が平成29年度に採択され、教育プログラムの開発及び教育体制を構築ならびに地域の実情に応じた経営戦略の企画・立案能力を兼ね備えた医療人材の養成を進めている。

北海道大学病院経営アドミニストレーター育成拠点(Hokkaido University Hospital Management Administration)は、平成29年度文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム(病院経営支援に関する領域)」に採択された事業である。病院経営における分析から戦略立案、およびその実行まで全てのプロセスにおいてリーダーシップを発揮できる人材を育成するプログラムの開発を目指している。教育プログラムは全12科目144時間から構成され、144時間のうち120時間以上を受講し、全12単位を取得した受講生には履修証明書を交付しており、2021年4月1日時点では、本プログラムにて計57名に履修証明書を交付している。

### 2. 目的

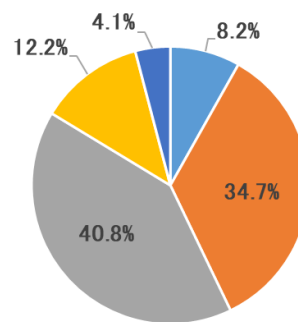
本研究の目的は履修証明書を発行した全12科目履修者に対するアンケートを通じて、北海道における病院経営人材養成に関する現状と本プログラムの果たす役割を明らかにすることである。

### 3. 方法

履修証明書を交付した57名を対象にGoogle Formsを用いた無記名アンケートを実施した。アンケート項目では年齢と業種の基本属性に加え、受講理由(複数回答)、プログラムの満足度(5点満点)、プログラムによる自身へのプラスの効果の有無(5点満点)の5つの質問ならびに自由記述とした。

### 4. 結果

回答者は49名(回答率:85.9%)であった。回答者のうち37名(75.5%)を30歳代、40歳代が占めた。(図1)



■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代

図1 回答者の年齢

受講理由(複数回答可)は「病院経営に係る知識を習得したかったから」(89.8%)が最も高く、「講義内容を学習する機会が他に無かったから」(55.1%)、「履修証明・ディプロマ取得に興味があったから」(40.8%)が続いた。(図2)

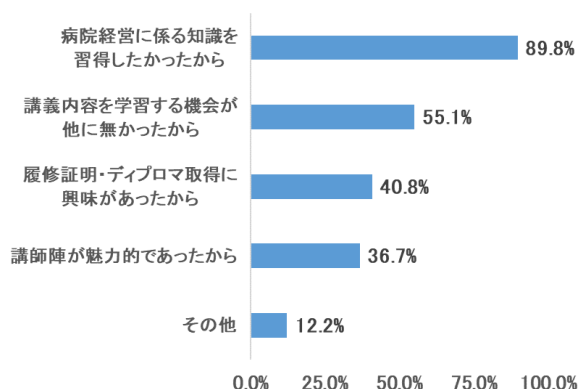


図2 受講理由(複数回答可)

プログラムの満足度はアンケート回答者全体の平均が 4.3、回答者の 43 名 (87.8%) が 4 点および 5 点と高い点数をつけており、満足度は高かった。(図3)

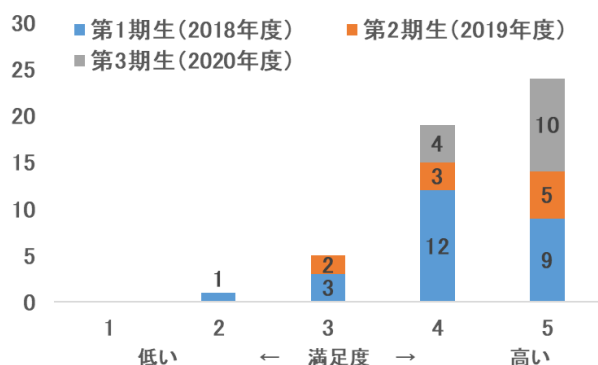


図3 プログラムの満足度

プログラムの学習効果は全体の 87.8%が高い学習効果があったと回答した。「2」の回答者について自由記述を確認すると学術的な内容ではなく、実践的な内容を希望していた。

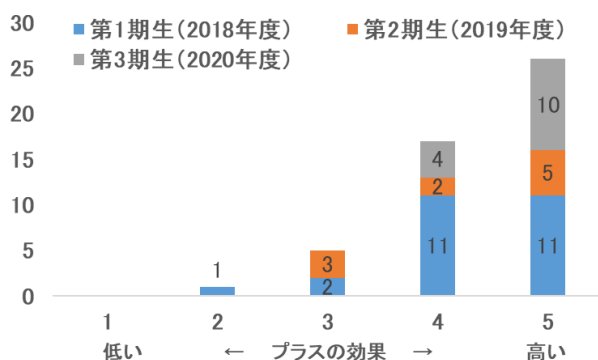


図4 自身へのプラスの効果

## 5. 考察

受講動機について回答者の 44 名 (89.8%) が「病院経営に係る知識を習得したかったから」に回答し、「講義の内容を学習する機会が他に無かったから」に 27 名 (55.1%) が回答した。病院経営では財務・戦略・組織の観点だけではなく、医療情報や法律など様々な観点から総合的に学ぶ必要があるが、北海道においては幅広い分野を体系立てて学習できる機会は少なく、本プログラムは受講者のニーズに合った教育プログラムを提供できたものと考えられる。

プログラムの全体満足度は 4.3 であった。本プログラムではカリキュラムを病院経営に関する基盤的知識の獲得を目的とする「基礎科目」、経営の実践に関する知識の獲得を目的とした「実践科目」に分け、体系的にプログラムを提供している。また各科目の講師は病院経営実務担当者および病院経営に関連する研究者のバランスを考えて構成している。こうしたプログラムの構成が全体の満足度の高さに繋がっていると考えられる。第3期生(2020年度)の満足度は全体平均で 4.7 と高い満足度を示した。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての講義をオンラインにて実施した。文部科学省が学び直しを行っていない社会人を対象に実施した学び直しに必要な条件として、「インターネットなどによる授業ができるシステムの整備」が上位に挙げられている。<sup>3)</sup>本プログラムでは開始当初から札幌市から離れた受講生を対象として Webex を用いたリアルタイムオンライン講義を行っている。オンラインによる講義は、北海道の地理的な課題の解決や、昨今では新型コロナウイルス感染症の感染リスクを避けることが期待されており、こうした取り組みが受講生の満足度に繋がったと考える。

今後の課題としては、オンラインでの講義において、受講者同士の縦と横のつながりを如何にして形成するかという点が挙げられる。アンケートの自由記載欄には、本プログラムの受講生の多くに所属組織以外の繋がりが出来たことに対する記載が多くみられた。一方で、すべての講義をオンライン形式で実施した第3期生では繋がりの形成ができなかったとの記載が見られた。受講者同士のネットワークを構築することで、受講者同士の協働が生まれ、地域で抱える課題の解決が期待される。こうした基盤として本プログラムが機能することが今後の課題である。

## 6. 結論

アンケートの結果から北海道における病院経営に関する学習機会について現状が明らかとなった。本プログラムにおける満足度の調査からプログラムの必要性が明らかとなった。

## 7. 参考文献

- 1) 一般社団法人日本病院会,公益社団法人全日本病院協会,一般社団法人日本医療法協会.病院経営定期調査,2019
- 2) 文部科学省. 課題解決型高度医療人材養成プログラム(平成29年度選定).2017
- 3) 文部科学省.社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究,2016